

令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立伊豆の国特別支援学校 伊豆松崎分校 P T A
学 校 名	静岡県立伊豆の国特別支援学校 伊豆松崎分校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	19人

1. 使用状況

寄贈物品名	プレルボールバドネットセット
使用学年及び人数	高等部全学年(19人)
使用頻度	通年 (昼休み・LHR・体育)
使用状況	バドミントンができ、体を動かして仲間と活動しようとする生徒が主に使用している。
物品の使用による変化や効果	生徒が2人いれば、ネットの準備、設置、片付けができるため、気軽にバドミントンを楽しめるのが利点。袋から道具を取り出す時、ネットが支柱の突起(ねじ)部分に絡まり、早くセットしてバドミントンをやりたいというはやる気持ちを抑えながら、声をかけ合い冷静にネットの絡みをほどいている姿がほほえましい。 繰り返し使用することで、片付けに要する時間が予測でき、次の活動に遅れないよう意識しながら時間を決めて活動できる。ネットを挟んでの対面型スポーツは直接的な接触がないため、コロナ禍での活動として大変良いと感じている。
今後の活用の見通しや課題	今後も、昼休みやLHRを中心に使用する。また、体育の授業で単元を組み、使用できればと考える。
その他希望や所感など	バドミントンは、小さい頃の経験がある生徒にとっては、手軽に楽しめるスポーツであると感じる。ラケットやシャトルもさほど重くはなく活動に取り掛かりやすいため、初めて取り組む生徒でも打てるよう、経験差がある生徒達に、準備片づけも含めて仲間で行く楽しさを味わわせていきたい。そのためにも、簡易的に扱える本製品を頂けたことはありがたく感じる。

2. 活用の様子

・ネットが支柱に絡まり、はやる気持ちを抑えながら絡んだネットを外す…。



・セットできたらさっそくプレイ！



・そろそろ片づけなければ！



*数分で準備、片付けができるので、すぐにプレイできるのが魅力です。